

平成21年度 心理相談センター活動実績

本 田 糸津華

Shizuka HONDA

本年度に行ったセンターの諸活動について、以下報告する。

1. 年報発行

昨年度に第5巻を発行し、本年度は第6巻発行予定とした。

2. 運営委員会開催

1) 運営委員

センターを支援しているのが運営委員である。本年度は4回開催された。運営委員は次のとおり、本学教職員の8名で構成されている。

運営委員長 塩山 二郎 (センター長)

運営委員 吉山 裕樹 (研究科長)

吉田 弘司 (研究科教授)

梅本 俣子 (同上)

森 修也 (同上)

大谷 哲朗 (同上)

深田 成子 (同上)

豊浦 順昭 (事務局長)

2) 運営委員会開催と議題等

第1回 心理相談センター運営委員会

日時；平成21年5月28日(木)

報告事項

- 1 平成20年度の活動実績について
- 2 平成20年度決算報告について
- 3 心理相談センター年報第4号 (配布)

審議事項

- 1 平成21年度心理相談センター事業計画について
- 2 院附属センター主催研究会の開催について
- 3 研修相談員の身分について
- 4 その他

第2回 心理相談センター運営委員会

日時；平成21年9月4日(金)

審議事項

- 1 研修相談員の委嘱について

第3回 心理相談センター運営委員会

日時；平成21年10月23日(金)

報告事項

- 1 平成21年度の事業内容と相談件数について
- 2 平成22年度の予算について

審議事項

- 1 研修相談員の身分について
- 2 その他

第4回 心理相談センター運営委員会

日時；平成22年3月10日(水)

報告事項

- 1 平成21年度大学院指定専攻コース実地視察評価について

審議事項

- 1 特別研修相談員の選考について
- 2 臨床指導員、相談員、研修相談員の委嘱について
- 3 特別研修相談員の加入保険について

3. 相談実績

① センターの相談活動について

表1 平成21年度 センター相談の件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初回面接	2	3	3	3	4	0	5	0	0	0	5	2	27
継続面接	26	28	29	37	28	32	34	34	35	28	30	47	388
遊戯療法	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
保護者面接	1	0	0	2	3	3	1	0	1	2	0	2	15
心理検査A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心理検査B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心理検査C	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	6
計	30	31	34	43	35	35	41	34	37	30	36	51	437

センターでの相談業務について、平成21年4月から平成21年3月までに行われた相談件数の集計を行った。本年度の総相談数は437件であり、1ヵ月平均、約36件を行っていることになる。センターでの面接区分は、初回面接、継続面接、遊戯療法、保護者との面接、心理検査A、心理検査B、心理検査Cに分類される（詳細はセンター規程を参照のこと）。表1に相談件数を示す。なお、本年度は心理検査AおよびBの実施はなかった。

相談内容、来談者年齢構成について表2、表3に示す。相談内容と来談者年齢層が多岐にわたっており、柔軟かつ多様な対応を必要とされた。

平成21年度は、臨床心理学専攻2年生、研究生に一年間を任期とする研修相談員の委嘱をした。さらに1年生には平成21年9月25日から平成22年3月31日までを任期とする研修相談員の委嘱をし、授業「臨床心理実習」の一環としてセンターの相談に従事した。また研修相談員は、個々で経験豊かな臨床心理士から相談に関する個別指導（スーパーヴィジョン）を受けた。

表2 相談内容別相談件数

主 訴	件 数
不登校、いじめ	2
ひきこもり	1
非行	0
緘黙	0
子育て、発達	9
家族	1
性格	1
対人関係	4
神経症	7
精神疾患	10
ターミナル	0
職場関係	3
その他	5
計	43

表3 利用者の年齢層

年 齢	人 数
10歳未満	1
10代	4
20代	11
30代	9
40代	8
50代	7
60代	2
70代	1
不明	0
計	43

② 比治山中学高等学校の相談件数

表4 比治山女子中学高等学校教育相談室のべ相談件数

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	4	2	3	2	3	3	4	3	4	2	2	32
生徒	5	5	2	0	0	3	6	2	6	2	0	31
保護者	2	0	3	2	4	3	6	6	6	4	5	41
教職員	2	2	2	0	1	2	1	1	0	1	0	12
計	13	9	10	4	8	11	17	12	16	9	7	116

比治山女子中学高等学校の教育相談室は、本センターの学外実習施設であり、学生がスクールカウンセリングの実際を学ぶ場として機能している。この相談室の相談業務は、本センターの相談員である大谷哲朗と研修相談員が担当した。平成21年度の相談件数は表4のとおりである。

4. ケース・カンファレンスの開催

研修相談員が担当する相談ケースの検討、報告する場として、センターの臨床指導員、相談員、大学院生を対象にケース・カンファレンスを毎週開催した。平成21年度の開催数は、合計33回であった。

5. 研修会（セミナー）の開催

平成21年3月13日（土）に対人関係セミナーを開催した。

渡辺久子先生（慶應義塾大学部講師）を講師にお迎えし、午前の部「こころの響きあいとその障害—

虐待とトラウマの理解に向けて」と題した講演を行い、午後の部はワークショップを行った。

臨床心理士、大学院生、医療・保健・福祉・教育・司法矯正等の領域で対人援助職、指導職に従事する142名が参加した。有資格者の学習の機会を提供できたことは心理臨床能力の維持、向上を図り地域社会への貢献へ繋がる有意義なものとなった。

また、臨床心理士教育・研修規程別項第2条(4)「日本臨床心理士資格認定協会の認める臨床心理学に関するワークショップまたは研修会」に申請し承認を得た。

6. 問題点と課題

本年度は前年度に比べ、相談件数が大幅に増加している。そのため、大学院生担当ケース数も増えていくと考えられる。しかし、諸事情により中断することも少なくないため、今後さらに適切な事例を受け入れることが必要になる。

また、初学者には比較的入りやすいケースとして知られている、幼児・児童の利用の要望を受け入れる体制を作り、連携を行うことや、実習の中に、遊戯療法の指導・訓練も取り入れていく必要がある。さらに、子どもの発達に関して保護者が悩みを抱え、相談を寄せてくることも少なくない。今後、発達障害等に関する神経心理学的検査の要望も増える可能性があるため、研修相談員の指導・訓練に力を入れていく必要がある。